

文部科学省認可通信教育
(第4種 定形外郵便)
令和2年 1月 7日発行

放送大学滋賀学習センター

樹 滴

緑豊かな環境

真理のしあたり

第114号

〒520-2123

滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1-5

龍谷大学瀬田キャンパス 4号館 1階

TEL. 077-545-0362

FAX. 077-545-2096

<http://www.sc.ouj.ac.jp/center/shiga/>

目 次

「乳母と桜と大和魂」(滋賀学習センター所長 吉川 栄治)	1
「絶望と希望の間に。」について(滋賀学習センター客員准教授 川中 大輔)	2
第20回かいつぶり文化祭と研修旅行の報告	3
滋賀学習センターのセミナーのご案内	4
事務室からのお知らせ	6
卒業証書・学位記授与式のご案内	8



乳母と桜と大和魂

学習センター所長 吉川 栄治

「大和魂」も今や死語に近い。WEBで検索しても、一部の体育系・宗教系以外はパチンコ、ラーメン屋、日本酒、アニメ、Tシャツくらいしかヒットしない。地下の吉田松陰もうなだれているだろう。

元々この言葉は愛国心とは関係がない。平安時代の女流歌人赤染衛門に次のような歌がある。

さもあらばあれ大和心し賢くは細乳につけてあらずばかりぞ (『後拾遺和歌集』)

乳母になろうとやってきた女の母乳の出の悪さに、「乳もない(知もないの掛詞)のに、よくまあ博士の家に来たもんだ」と顔をしかめる夫の大江匡衡(有名な学者)に、「いいじゃないの。大和心があれば乳がなくても」と擁護した歌である。もう一つ例を上げよう。光源氏が息子を大学に入れようと学問の必要性を説く場面。

才(漢才の略)を本としてこそ大和魂の世に用ゐらるる方も強う侍らめ。(『源氏物語』少女)

家柄のお蔭で昇進しても、皆うわべはへつらいながら内心馬鹿にする。教養があつてこそ政治力も評価されるのだという趣旨である(どこかの首相の話ではない)。和魂漢才というが、和魂は実務能力、漢才は漢学の才、この両者を貴族の資質として対比的にとらえたもので、漢詩と区別して和歌というように「大和」に深い意味はない。前記の歌も、「乳も知性もないけれど、さばけそうだからいいのでは」ということだ。

この何ということもない語を仰々しいイデオロギ一色で染めたのは、江戸期の国学者本居宣長である。

敷島の大和心を人とはば朝日にほふ山桜花 (自画自賛像に添えた歌)

儒教嫌いの宣長は、事々しく理屈を弄ぶ態度を漢意と称し、中国は言語まで鳥獸にひとしいと断じる一方、原初の日本人がもっていた(はずの)虚飾のない純良な精神を大和心と呼び、世界を照らす太陽神アマテラスの末裔たる天皇に万国が臣従すべしと主張した。この復古神道が武士道や水戸学の国体観念と結合、尊皇攘夷の流れの中で排外的国粹主義になり近代にひきつがれた。できの悪い上記の歌も、散る桜のように潔い日本精神の象徴として神棚に祭られる。さばけた乳母が猛々しいサムライに変貌したのである。

(日清)戦争が始まつて以来仲間の話は朝から晩まで大和魂とちやんちやん坊主(中国人の蔑称)でもちきつてゐる……先生はれいのしたり顔で「日本人には大和魂がある」といつていつものとほり支那人のことをなんのかのと口ぎたなく罵つた。(中勘助『銀の匙』)

今に続く嫌中感情の根深さが知られるだろう。辺土の島国ゆえの視野狭窄と誇大妄想の所産である。

宣長の言説を批判したのは、同時代の国学者上田秋成と村田春海だった。特に宣長と激しい古代史論争をくりひろげた秋成は、神話を史実と強弁する非合理性と頑迷さによほどの嫌悪感を覚えたようである。

田舎人のふところ親爺(世間の狭い田舎親爺。伊勢松坂在住の宣長をさす)の説も、また田舎者の聞いては信ずべし。京の者が聞けば、王様の不面目なり(むしろ天皇の不名誉と思うだろう)。大和魂といふことをとかくに言ふよ(あれこれ言うことよ)。どこの国でも、その国の魂が国の臭気なり。(『胆大小心録』)

宣長と同じ賀茂真淵門下の春海の方は、もう少しおだやかにその非科学的な態度をいましめている。

(宣長は大和魂という言葉をしひて厳めしうとりなし侍りて、唐の手ぶり(中国の習俗)をあばき憎み、世々の聖(中国古代の聖人たち)の教へおき給へることをさへに悪しざまに言ひなすを大和魂なりと言ふは、いと心得がたし……すべて詞は古の使ひざまに従ひて、本の心を失はざらんやうにこそ使ふべきものなれ。私の心のままに引き直して(恣意的に解釈し直して)用ふべきものに侍らず。(『窓雪』)

言葉の意味を操作して自説に援用することへの冷静な批判ではある。しかし、後の歴史を方向づけ、「世界の中心で輝く」「美しい瑞穂の国」を焦土に変えたのは、情緒的ゆえに感染力の強い宣長の主張だった。

絶望と希望の間に。

学習センター客員准教授 川中 大輔

改めて言うまでもないことだが、少子高齢化に伴う歪な人口構成のもとで日本は人口減少を迎えており、財政の収支均衡は崩れている。加えて、社会インフラの老朽化に伴う更新等の費用は今後高まる一方で、従来の水準での政府サービスの維持は期待するのが難しいと考えられている。こうして福祉国家の危機が指摘され、「地域共生社会」などの社会像が提起されるなど、福祉国家再編の必要性が唱えられるようになって久しい。各種社会保障制度の将来についても不安視されている。日本社会の「これから」を語る際、ある意味では「暗い未来」が予見されていると述べても過言ではない。

しかし、多くの人々がこうした危機を切実なものとして認識しているとは思われない。何となく分かっているが、AIに代表される科学技術の発展や東京オリンピック・パラリンピックなどの祝祭を契機に「大きな変化」が起こって、どこかで「何とかなるのだろう」という淡い希望を持っている人が少なくないのではないだろうか。阿部（2018：212-214）は、戦後日本の社会変容と未来／希望の関係を分析し、「失われた20年」以降の長期にわたる日本社会の閉塞感から変革が困難であることを十分自覚しつつも、「未来に希望がある」こと自体を希望するという「希望への希望=〈希望〉」を漠然と求める心が広がっているのではないかと指摘している（表1）。「何とかなるだろう」という言葉には、変革の戦略／方策も、変革の先にあるビジョンも欠いており、まさに〈希望〉から出てくる空虚な期待に他ならない。

表1 戦後日本の社会変容と未来／希望

年代	区分	「未来」の位置付け	希望への関係
1945-1960	理想の時代	来たるべきこれから (未来での実現可能性)	希望への信望
1960-1975	夢の時代	ありうべきこれから	希望への願望
1970-1995	虚構の時代	いかようにでもあるこれから (反現実としての現在の同時平行性)	希望への絶望
1995-現在	不可能性の時代	行くあてなきこれから	希望への希望 = 〈希望〉

出所：阿部(2018) をもとに筆者作成

では、なぜそのような実体のない〈希望〉で安穩としておれるのだろうか。宮台（2003：165）は「存在すべき絶望が存在せずに、ヌルい失望のようなものしか存在しない」ことを問題視している。日本社会の「暗い未来」の訪れを感知しつつも直視／正対できていないから、「これまで」の経験をもとにした小手先の対応で「何とかなるだろう」と思っているのではないかということである。私たちが未来を語る時、足りていないのは希望ではなく「絶望」なのである。だが、絶望などしてしまえば、沈没しかかっている船から人が逃げ出すように、直視／正対するどころか目を背けて脱出を図ることを促すのではないかと懸念されるだろう。確かに失望の先にある絶望は無気力を生む。ここで書いている「絶望」はそのような失望の先にあるものではない。希望の先や前にあるものである。

真に「絶望」できるということは、実は希望を抱いている裏返しでもある。無感情／無関心であれば、絶望も希望もない。「暗い未来」を直視／正対することで醸成された絶望感／危機感をバネにして「だからこそ、このような戦略／方策によってオルタナティブな未来を実現しなければならない」と希望を取り出していく回路もあるはずだ。祝祭等で演出された〈希望〉に酔いしれずに、「絶望」の徹底から紡がれた希望を分かち合い、コミュニティを形成していく営みを通じて、ラディカルなイノベーションを目指したい。

参考文献

- 阿部潔, 2018, 「『2020』から『1964』へ—東京オリンピックをめぐる〈希望〉の現在」, 小路田泰直・井上洋一・石坂友司 編『〈ニッポン〉のオリンピック—日本はオリムピズムとどう向き合ってきたのか』青弓社, pp. 192-216.
- 宮台真司, 2003, 『絶望から出発しよう』ウェイツ

第20回 かいつぶ り文化祭 の報告

11月2日(土)に学友会(かいつぶり)主催による「第 20 回かいつぶり文化祭」が開催されました。玄関ロビーと展示会場には、山野草コーナー、絵画・書・陶芸品・手工芸品・写真・和歌俳句・生け花・自家野菜・収集品など多くの自作の作品が展示されました。

午前中は、「安土図屏風の实像とその歴史的意義」と題して、放送大学教授の杉森哲也先生の講演会が行われ、85名の参加者が熱心に耳を傾けていました。お昼には先生を交えて和気藹々と昼食懇親会がもたれました。ほかにも、コーヒーの無料サービスコーナー、輪ゴム体操コーナーがあり、多くの方が体験したり語らいながら楽しそうに過ごされました。午後からは、「落語を楽しもう」ということで、落語家からはし亭る一都さんにお越しいただき、第一部では演目『青空散髪』の落語に大きな笑い声を出して楽しみ、第二部では学友会幹事の方の進行で「落語の楽しみを語る」というテーマで自由に話し合い、楽しい時間を過ごされました。



令和元年度 研修旅行 の報告

10月8日(火)は当センターの学生研修旅行が実施されました。今年の研修旅行は、京都府の「軍港舞鶴の歴史をたどる」という目的で、「岸壁の母」で知られるシベリア抑留の苦難と平和への願いを歴史資料とともに伝える引揚記念館、旧海軍舞鶴鎮守府が開かれた頃に海軍が建設した美しい多くの赤レンガ建造物、「近畿百景」第一位の五老ヶ丘展望台を巡りました。朝、出発して京都亀岡あたりでは時に強い雨に降られるような空模様でしたが、舞鶴では曇ってはいたものの小雨も降ることなく、少し涼しいくらいの天候で、参加者一同、心地よく舞鶴の街を訪問することができました。

滋賀学習センター客員教授の秋山元秀先生も参加していただき、往路のバスの中では来年の大河ドラマの明智光秀とのゆかりが強くある土地柄であることから、細川幽斎との関わりやその他歴史上の史実、また、地理学的な観点からも幅広く説明をいただきました。舞鶴の訪問地でも興味が広がるポイントを押さえた説明をいただきました。熱心な説明を聞くことができ、大変有意義な一日を過ごすことができました。秋山先生には解散前には、全員が拍手で感謝の気持ちをお伝えしました。令和の初めにふさわしいとてもよい研修旅行となりました。



セミナー のご案内

所長・客員教員が開催する学びの場です。原則として滋賀学習センター所属の学生が参加できます。

以下の日程が変更になる場合は、滋賀学習センターWEB ページ及び掲示板でお知らせしますのでご注意ください。



古典入門セミナー

— 日本の名場面 —

吉川 栄治 先生

「人間」をテーマに、さまざまな古典作品の中から、生と死、性と愛をめぐり、昔の日本人のありのままの姿を活写した場面を選び、現代と異なる倫理観・死生観・婚姻観などについて解説します。

1月14日(火) 10:30~12:00

2月 4日(火) 10:30~12:00

2月25日(火) 10:30~12:00

3月 3日(火) 10:30~12:00

3月17日(火) 10:30~12:00

3月24日(火) 10:30~12:00



中国史の原典を読む セミナー

秋山 元秀 先生

宋の司馬光が著した『資治通鑑』の漢武帝の時代を読みます。

テキストは活字標点本(中華書局)を使います。

1月 8日(水) 10:30~12:00

1月15日(水) 13:30~15:00

2月12日(水) 10:30~12:00

2月26日(水) 10:30~12:00

3月 4日(水) 10:30~12:00

3月25日(水) 10:30~12:00



仏教英語入門セミナー

— ちょっと英会話 —

石田 法雄 先生

仏教思想を英語で講義し、日本語で解説し、討論を行います。

諸行無常の英訳は Everything is changing. です。系統立てた講義ですが、毎回テーマがありますので自由に参加して下さい。

1月10日(金) 13:30~15:00

1月17日(金) 15:15~16:45

2月 7日(金) 13:30~15:00

2月21日(金) 13:30~15:00

3月 6日(金) 13:30~15:00

3月13日(金) 13:30~15:00



経済学セミナー

— 現代経済を考える — (2月より)

梅澤 直樹 先生

現代の世界経済のカギを握るアメリカと中国の経済・社会状況について、それぞれを描いた新書レベルのテキストを素材に現状とその背景を探ってみようと思います。参加者の闊達な議論を期待しています。

1月17日(金) 10:30~12:00 (1月は前回の続きとなります)

2月 5日(水) 10:30~12:00

2月19日(水) 10:30~12:00

3月11日(水) 10:30~12:00

3月18日(水) 10:30~12:00

NO
IMAGE

異文化理解入門セミナー

— 文化人類学の視点と方法を学ぶ —

兼重 努 先生

文化人類学における異文化理解の基礎的視点と方法論について以下の2点を中心に学びます。①世界の諸文化を正しく理解するための視点と方法論、②異文化を生きる人々の目を通して人生や世界を見るための視点と方法論。

1月14日(火) 13:30~15:00



コミュニティ・デザイン研究セミナー

— 多文化共生とコミュニティデザイン —

川中 大輔 先生

人々の国際移動が活発になっている現代にあって、日本社会もまた既に多文化化している。この潮流の中で顕在化してきている多文化共生に向けた課題に向き合うコミュニティ形成について本セミナーでは講究していく。

1月17日(金) 13:30~15:00

2月 5日(水) 15:15~16:45

3月 4日(水) 15:15~16:45



現代化学セミナー

— 元素の周期表から材料科学へ —

藤原 学 先生

私達は、いろいろな物質(材料)に取り囲まれて豊かな生活を送っています。なぜ、このような材料がつくられ利用されているかについて理解するために、化学の基本である元素の周期表から講義を始めていきます。

1月8日(水) 13:30~15:00

職 名	氏 名	現 職 名 等	専 門 分 野
所 長	吉川 栄治	放送大学特任教授・滋賀大学名誉教授	国文学
客員教員	秋山 元秀	滋賀短期大学長・滋賀大学名誉教授	地理歴史学・人文地理学
	石田 法雄	滋賀県立大学名誉教授	宗教学・英語英文学
	梅澤 直樹	大和大学教授・滋賀大学名誉教授	社会経済学
	兼重 努	滋賀医科大学教授	文化人類学
	川中 大輔	龍谷大学講師	社会学
	藤原 学	龍谷大学教授	機器分析化学

事務室か らのお知らせ

図書・再視聴室の利用期間、通信指導の添削、単位認定試験の期間・時間割・携帯品、また今学期で卒業見込みの方、学籍が切れる方、次学期も学籍が続く方の、それぞれの手続きなどについてご案内します。

図書・再視聴室の利用について

■利用時間 通常期間 9:15~17:45 (試験期間 9:00~18:45)

図書・再視聴室への入室時には、学生証が必要です。

■図書の閲覧及び貸出

図書資料は、書架より自由に取り出して閲覧できます。

※学習センター閉所日や開所時間外での図書資料の返却は、玄関前に設置の返却ポストをご利用ください。

開所中は「図書・再視聴室」へ返却してください。

■再視聴学習

放送教材(教養学部は2018年度以前、大学院は2017年度以前の開設科目のDVD/CD)は受付カウンターで手続きをすれば、インターネット視聴端末では全科目の視聴が可能です。(登録科目以外の放送教材も視聴できます。)

※ 放送教材の貸出は、現在登録している科目及び再試験科目の放送教材を郵送にて大学本部からご自宅に取り寄せることができます。往復の送料は、貸出希望者の負担になります。詳しくは「学生生活の葉」(学部:33頁~35頁、大学院:44頁~47頁)を熟読してください。

■閉室日

* 再視聴室閉室 3月25日(水)~3月31日(火)(図書・放送教材の整理のため)

■ロッカーおよびメッシュケースの利用

学习上必要とする教材以外の所持品(かばん等)は、図書・再視聴室へは持ち込まないで、ロッカーを利用してください。

なお、貴重品は必ず身に付けてください。ロッカーの利用は当日限りとし、無料です。(100円硬貨リターン式)

また、カウンターにメッシュケースを置いていますので、教材等の持ち運びにご利用ください。なお、メッシュケースの利用は当日限りとします。

通信指導の添削結果について

通信指導の合格により、当該科目の単位認定試験の受験資格が得られます。未提出、あるいは不合格の場合は受験できません。通信指導の可否結果は、添削結果と同時期に送付される「単位認定試験通知(受験票)」によって通知されます。

添削結果返送時期は2019年12月末頃です。択一式は2020年1月8日(水)、記述式は2020年1月17日(金)までに届かない場合は、大学本部総合受付(Tel: 043-276-5111)に連絡してください。詳しくは、「学生生活の葉」学部:67頁~71頁、大学院:62頁~66頁を参照ください。

単位認定試験について

通信指導の合格により受験資格が得られます。未提出または不合格の場合は受験できません。通信指導の結果が届かない場合は、大学本部総合受付(TEL:043-276-5111)へ連絡してください。



単位認定試験については、「受験票」、受験票に同封の「単位認定試験に際しての注意事項」および「学生生活の葉」(学部:71頁～79頁、大学院:66頁～74頁)を熟読してください。

■期間

【大学院】1月21日(火)、1月22日(水)

【教養学部】1月23日(木)、1月25日(土)～1月30日(木)※1月24日(金)、1月27日(月)を除く

■必要なもの

★単位認定試験通知(受験票)

試験日の約1週間前までにご自宅に送付されますが、「単位認定通知(受験票)が1月14日(火)までに届かない場合や紛失した場合は、大学本部総合受付 TEL:043-276-5111)へ連絡ください。

★学生証

学生証は、学習センターで発行します。発行するためには、事前に写真票を大学本部に提出していただき、システムWAKABAに登録されていることが必要です。写真票は、試験日までに余裕をもって大学本部に提出してください。(発行には数日かかります)

★HBの黒鉛筆 シャープペンシルは不可です。

★持込み許可物品

受験票に同封されている「単位認定試験受験に際しての注意事項」に記載されていますので、必読ください。学習センターでは、持込み許可物品の貸与はできません。

■時間割等

★試験開始の10分前までに、受験票に指定された試験室に入室してください。

★1時限は50分です。

★1時限に1科目の受験です。

★遅刻は試験開始後20分まで認められますが、時間の延長はありません。

★試験開始30分経過後は退室することができます。

(一部のリスニング科目を除く)

単位認定試験実施時間割	
第1時限	9:15～10:05
第2時限	10:25～11:15
第3時限	11:35～12:25
第4時限	13:15～14:05
第5時限	14:25～15:15
第6時限	15:35～16:25
第7時限	16:45～17:35
第8時限	17:55～18:45

■駐車場

自家用車で来る方は、事前に事務室で「入構許可証」発行を済ませてください(『利用の手引き』巻末にある「入構許可申請書」に記入の上、提出してください)。満車時は、バス停横の大駐車場をご利用ください。

■試験結果

試験結果は、2月下旬に「成績通知書」によって通知されます。なお、システム WAKABA でも成績を確認することができます。なお、「成績通知書」や同封されている「単位修得状況一覧(単位認定書)」は証明書ではありません。証明書が必要な場合は、所定の手続きを行い、「成績、単位修得証明書」の交付を受けてください。

次学期にむけての手続きについて

<3月で学籍が切れる方>

学習を継続される方、再試験を受ける方は継続入学をしてください。

- 申請期間: 第1回(郵送)2月29日(土)まで ※本部私書箱必着 (インターネット)2月29日(土)24:00まで
第2回(郵送)3月17日(火)まで ※本部私書箱必着 (インターネット)3月17日(火)24:00まで

■ 提出物: 継続入学用出願票

※ 選科生、科目生から全科生へ入学する場合は、「学生募集要項」で出願してください。

※ 新規に科目登録をせず、再試験のみを希望される場合は、「今回は再試験のためだけの出願である」に○を付けてください。

<次学期も学籍が続く方> 「学生生活の葉」学部:60頁~63頁、大学院:55頁~61頁参照

期間内に次学期の科目登録をしてください。

- 申請期間: (郵送)2月13日(木)~2月27日(木) ※本部私書箱必着
(システム WAKABA)2月13日(木)9:00~2月29日(土)24:00まで

■ 提出物: 科目登録申請票

<今学期で卒業見込みの方> 「学生生活の葉」学部:95頁~100頁、大学院:88頁参照

学習を継続される方は、以下の通り入学手続きをしてください。

⇒学籍が続く方

①卒業となった場合の手続き

- 申請期間: 第1回(郵送)2月29日(土)まで ※本部私書箱必着 (インターネット)2月29日(土)24:00まで
第2回(郵送)3月17日(火)まで ※本部私書箱必着 (インターネット)3月17日(火)24:00まで

■ 提出物: 継続入学用出願票

②卒業とならない場合に備えての手続き

- 申請期間: (郵送)2月13日(木)~2月27日(木) ※本部私書箱必着
(システム WAKABA)2月13日(木)9:00~2月29日(土)24:00まで

■ 提出物: 科目登録申請票

システム WAKABA
をご活用ください!



⇒学籍が切れる方

- 申請期間: 第1回(郵送)2月29日(土)まで ※本部私書箱必着 (インターネット)2月29日(土)24:00まで
第2回(郵送)3月17日(火)まで ※本部私書箱必着 (インターネット)3月17日(火)24:00まで

- ① 卒業となった場合の手続き 提出物: 継続入学用出願票
- ② 卒業とならない場合に備えての手続き 提出物: 学生募集要項出願票

卒業式・ 入学者の 集いのご 案内

2019年度第2学期「卒業証書・学位記授与式」を2020年3月29日(日)に11時から举行します。

今年度の「利用の手引」の月別予定表では3月29日(日)に「卒業証書・学位記授与式」と「入学者の集い」を同日に举行する予定になっていましたが、2020年度第1学期の「入学者の集い」は4月5日(日)に単独で開催することとします。関係される学生の方もおられると思いますのでよろしくお願いたします。



スケジュール



1 月			2 月			3 月		
日	曜	内 容	日	曜	内 容	日	曜	内 容
1	水	元日 年始閉所日(～1/4)	1	土	面接授業 教員免許更新講習放送授業(インターネット配信) 開始(～3/1)	1	日	教員免許更新講習修了認定試験 教員免許更新講習放送授業(インターネット配信)終了 2020年度1学期修士選科・科目生、教養学部第2回受付開始(～3/17)
2	木	閉所日	2	日	面接授業	2	月	閉所日
3	金	閉所日	3	月	閉所日	3	火	【セ】吉川10:30
4	土	臨時閉所日(冬季)	4	火	【セ】吉川10:30	4	水	【セ】秋山10:30 【セ】川中15:15
5	日		5	水	【セ】梅澤10:30 【セ】川中15:15	5	木	
6	月	閉所日	6	木		6	金	【セ】石田13:30
7	火		7	金	【セ】石田13:30	7	土	
8	水	【セ】秋山10:30 【セ】藤原13:30	8	土		8	日	公開講座(滋賀SC 14:00 吉川栄治先生)
9	木		9	日	公開講座(滋賀SC 14:00 梅澤直樹先生)	9	月	閉所日
10	金	【セ】石田13:30	10	月	閉所日	10	火	
11	土	面接授業	11	火	閉所日(建国記念の日)	11	水	【セ】梅澤10:30
12	日	面接授業	12	水	【セ】秋山10:30	12	木	
13	月	閉所日(成人の日)	13	木	2020年度第1学期科目登録申請 (面接授業を含む)受付開始(～2/27郵送、～2/29web)	13	金	【セ】石田13:30
14	火	【セ】吉川10:30 【セ】兼重13:30	14	金		14	土	
15	水	【セ】秋山13:30	15	土		15	日	
16	木		16	日		16	月	閉所日
17	金	【セ】川中13:30 【セ】梅澤10:30 【セ】石田15:15	17	月	閉所日	17	火	【セ】吉川10:30 2020年度1学期修士選科・科目生、教養学部第2回受付終了
18	土		18	火		18	水	【セ】梅澤10:30
19	日		19	水	【セ】梅澤10:30	19	木	
20	月	閉所日 第2学期放送授業終了	20	木		20	金	閉所日(春分の日)
21	火	冬期学習期間(再放送等)開始(～3/31) 第2学期大学院単位認定試験 集中科目履修生(看護再試験)単位認定試験	21	金	【セ】石田13:30	21	土	
22	水	第2学期大学院単位認定試験	22	土		22	日	
23	木	第2学期教養学部単位認定試験	23	日	閉所日(天皇誕生日)	23	月	閉所日
24	金	臨時閉所日	24	月	閉所日	24	火	【セ】吉川10:30
25	土	第2学期教養学部単位認定試験	25	火	【セ】吉川10:30	25	水	【セ】秋山10:30 図書・放送教材等整理のため視聴室閉室(～3/31)
26	日	第2学期教養学部単位認定試験	26	水	【セ】秋山10:30	26	木	
27	月	閉所日	27	木	2020年度第1学期科目登録申請(面接授業を含む)受付期限 (郵送)	27	金	
28	火	第2学期教養学部単位認定試験	28	金		28	土	
29	水	第2学期教養学部単位認定試験	29	土	教員免許更新講習修了認定試験 2020年度1学期科目登録申請(面接授業含む)受付期限(Web) 2020年度1学期修士選科・科目生、教養学部第1回受付終了	29	日	卒業証書・学位記授与式
30	木	第2学期教養学部単位認定試験				30	月	閉所日
31	金	体育実技単位認定申請締切				31	火	冬期学習期間(再放送等)終了

◇表紙写真説明

令和元年10月8日に研修旅行で訪れた舞鶴赤レンガパークでの集合写真

【セ】=セミナー